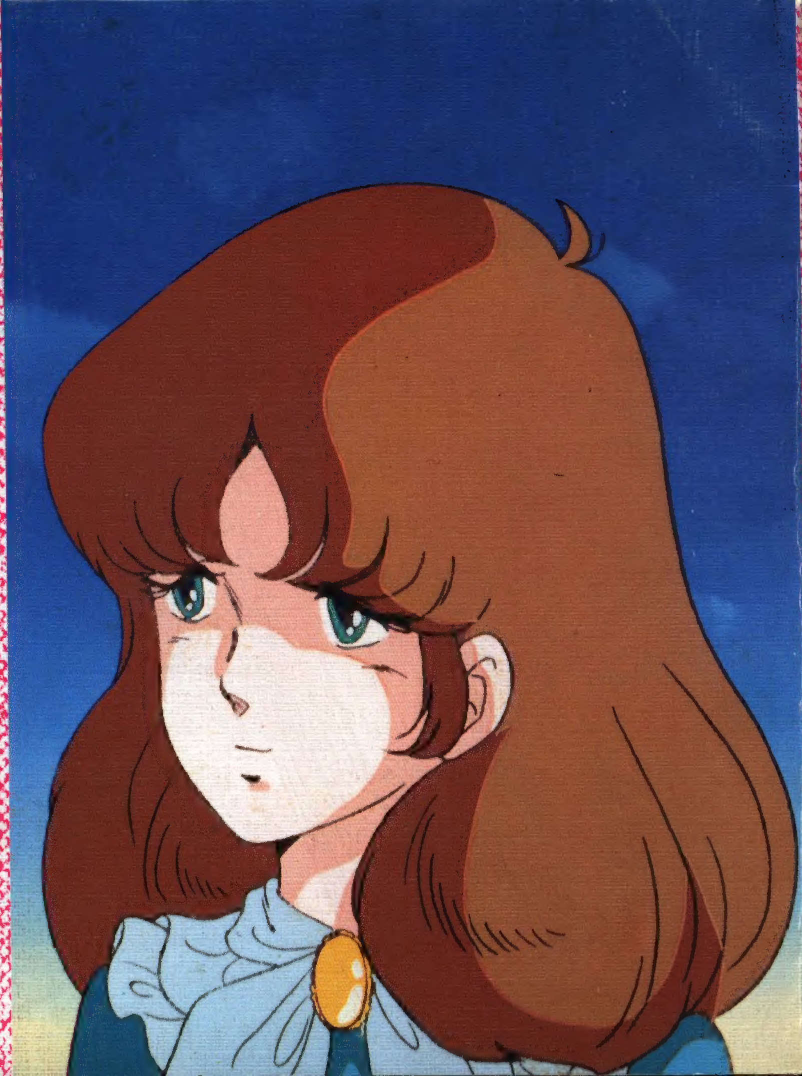
Macross

女の子のための

Gal's Book





美樹本晴彦○色紙コレクション――①





Mari

LOVE♥COUPLE SEAL

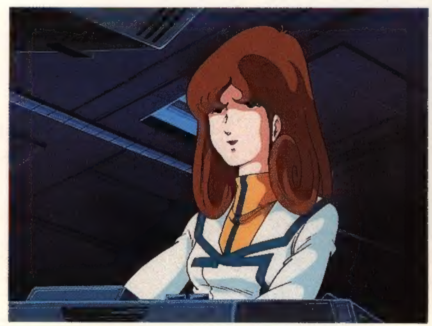






LOVE♥COUPLE



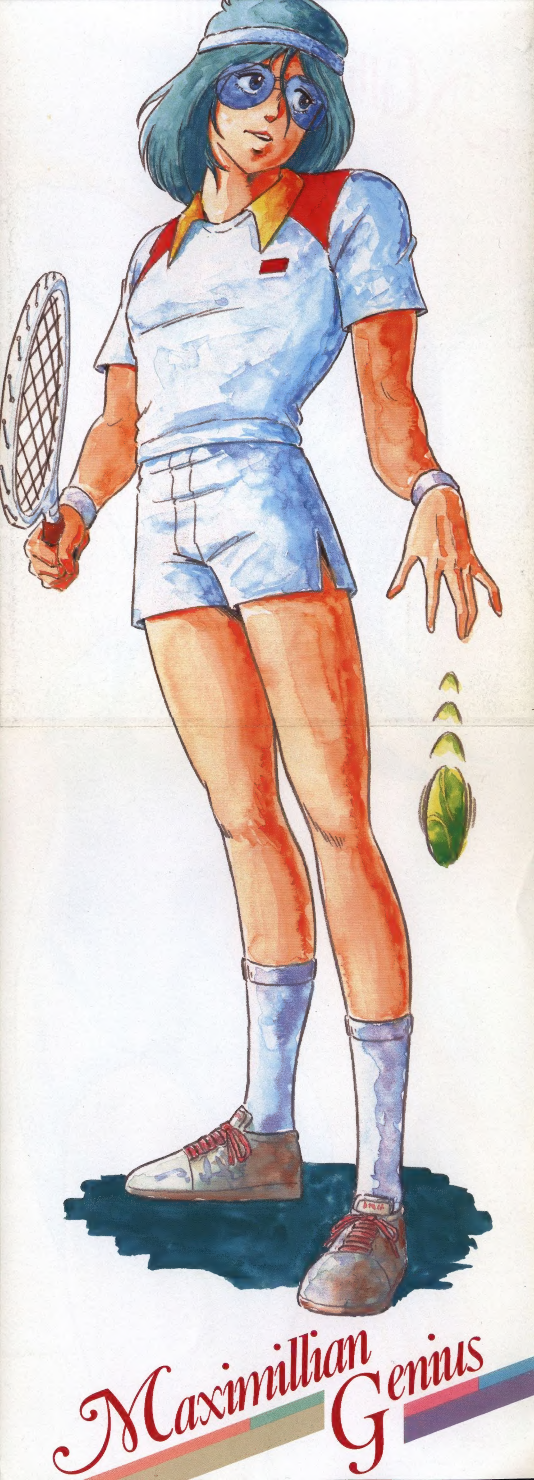






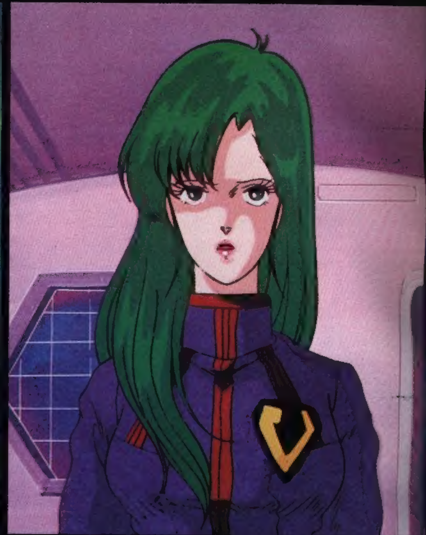


Illustrated by TOSHIHIRO HIRANO


Maximillian
Genius

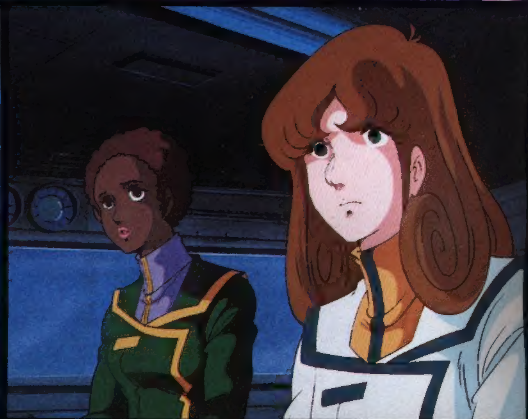
Macross Gals



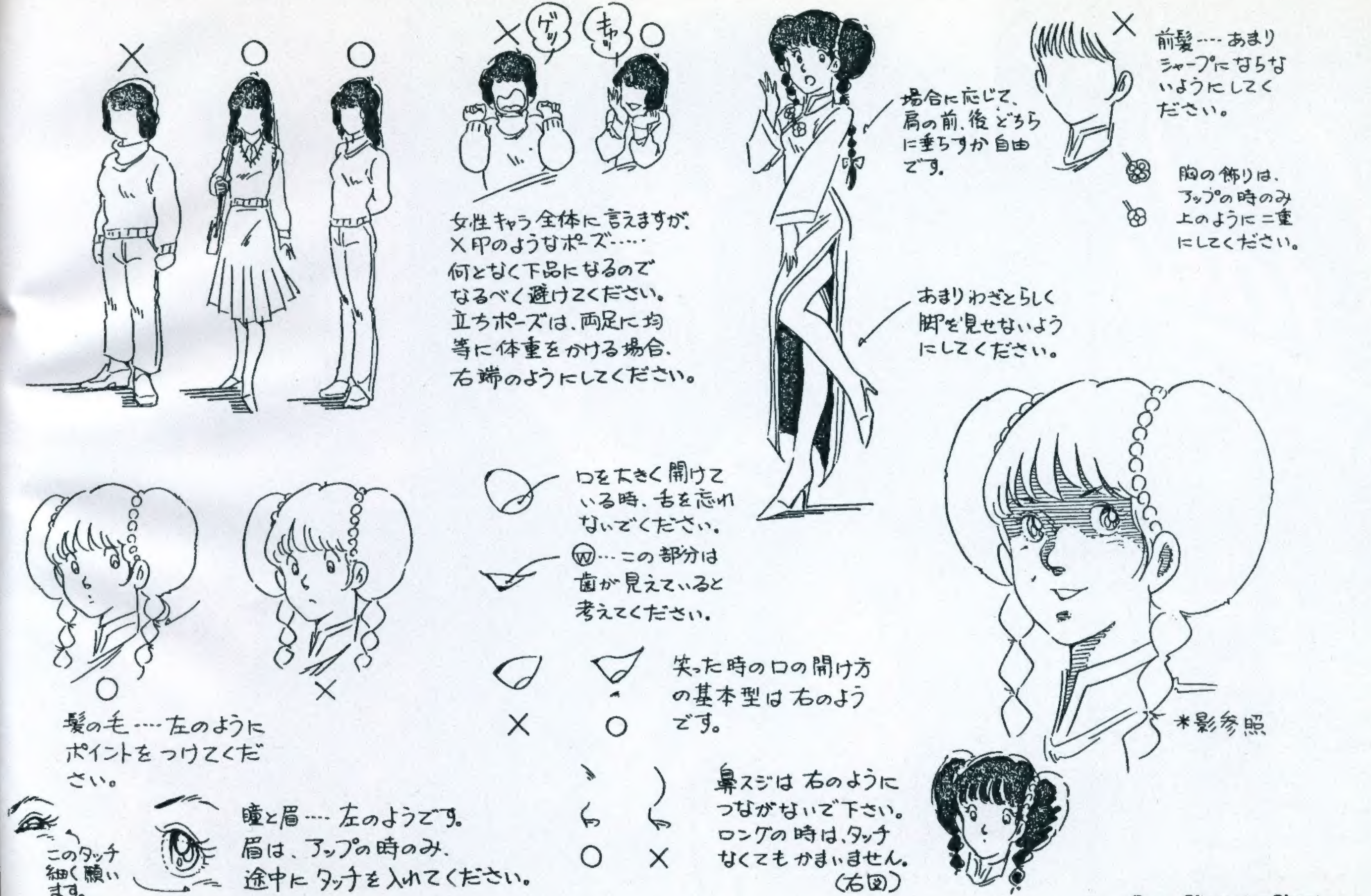


「超時空要塞マクロス」のテーマともいえる、女性キャラクターの大特集。男の子の間で、人気上昇中のマクロスギャルズに、あなたも迫ってみませんか？





●リン・ミンメイの描き方講座／美樹本晴彦

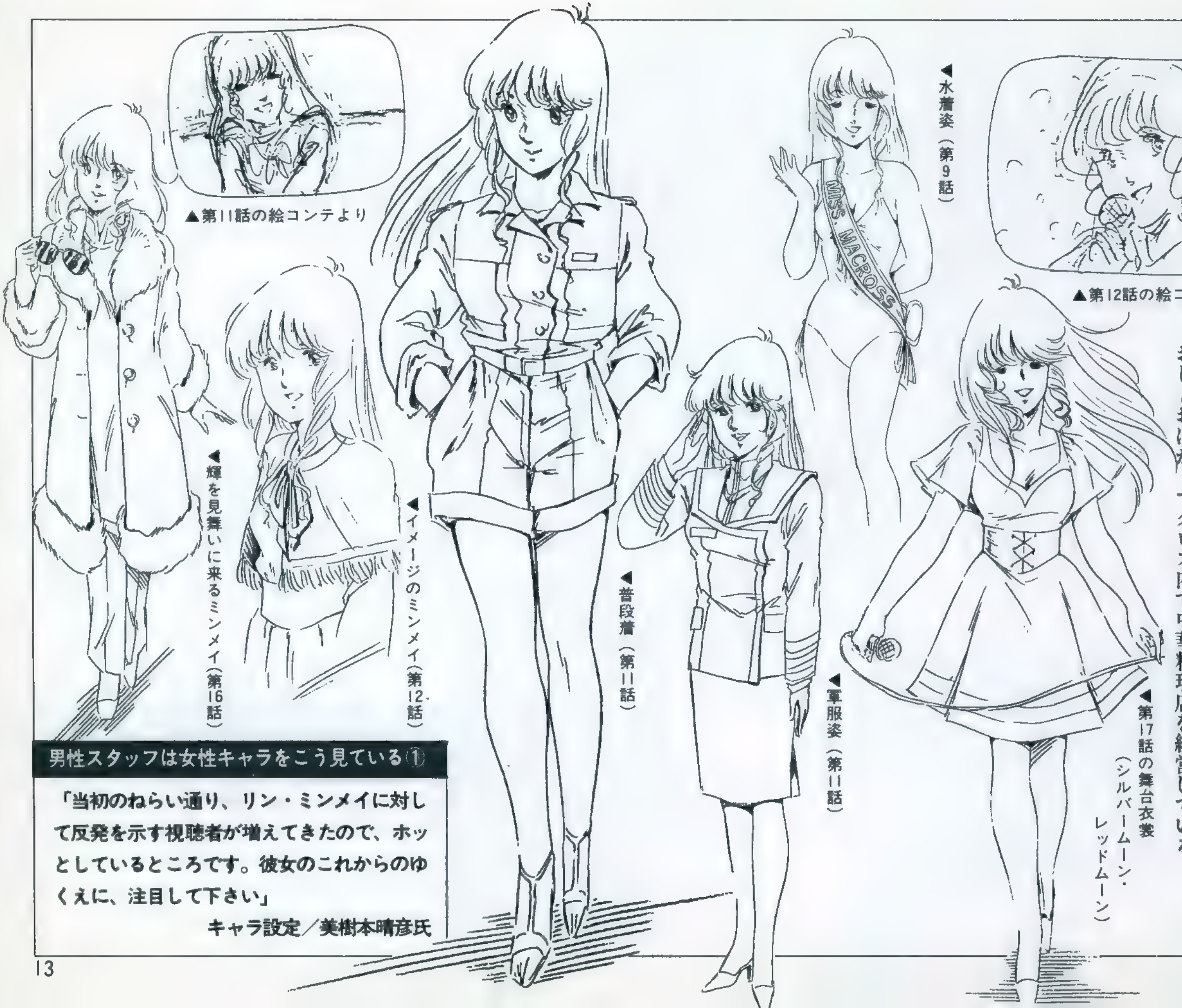


From Character Sheet

リン・ミンメイ

どこにでもいるようで、実際にはどこにもいないかわいらしい15歳の女の子。男の子には関心が無いといいながらも、男友だちをたくさん持っている。一条輝との間に恋らしきものが目芽えるが、ミンメイにとっては、男友だちの中のひとりなのかもしれない。

タレント志望で「ミス・マクロス・コンテスト」に優勝し、後に、歌手としてデビュー。味方ばかりか敵側のアイドルにもなる、おじとおばが、マクロス内で中華料理店を経営している。



▲第12話の絵コンテより

◀水着姿（第9話）

▲第11話の絵コンテより

◀輝を見舞いに来るミンメイ（第16話）

◀イメージのミンメイ（第12話）

◀普段着（第11話）

◀軍服姿（第11話）

◀第17話の舞台衣裳（シルバームーン・レッドムーン）

男性スタッフは女性キャラをこう見ている①

「当初のねらい通り、リン・ミンメイに対して反発を示す視聴者が増えてきたので、ホッとしているところです。彼女のこれからのゆくえに、注目して下さい」

キャラ設定／美樹本晴彦氏



Lynn Minmay

Misa Hayase



早瀬未沙



▲第11話の絵コンテより

士官学校を首席で卒業したエリート。19歳。１００年も前からの軍人家系で、中学のころに入隊、以来ずっと軍隊暮らしで、いつも任務のことで頭がいっぱい。軍隊仲間には、首席の中尉は鬼よりも恐いと呼ばれ、彼女をよく知らない人からは、少々近よりがたいところのある才女と見られることが多い。13歳のころ、統合戦争で、初恋のライバー少尉を失った過去をもち、男性にはあまり興味を示す素振りを見せず、任務が恋人とあきらめている。



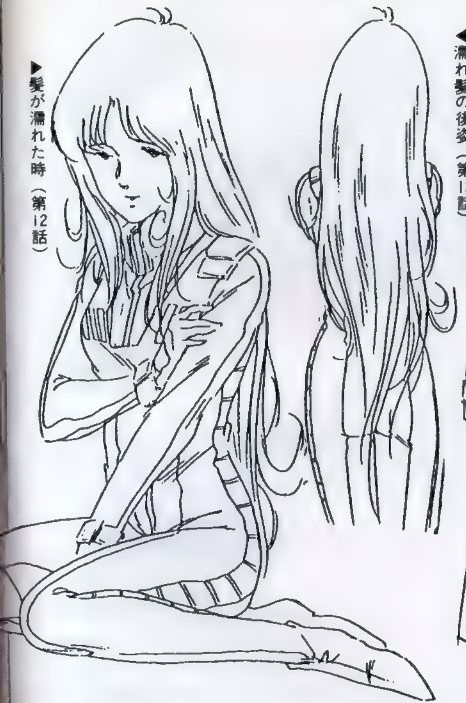
▲第12話の絵コンテより



▶宇宙服姿（第7話）



◀普段着（第19話）



◀濡れ髪の後姿（第12話）

▶髪が濡れた時（第12話）

男性スタッフは女性キャラをこう見ている 2

「極端ないい方をすれば、ミンメイは外側から扱うキャラですが、未沙は内側から扱っています。ミンメイのほうが感情論にふみこまないように作っているので、のめり込んで作れるのは未沙ですね」　メカ設定／河森正治氏

● MACROSS GAL PROFILE

クローディア・ラサール

マクロスの航行担当主任オペレーターを務める。22歳のキャリア・ウーマン。早瀬未沙の親友であると同時に、男性に対してかたくなな姿勢を見せる未沙のよきアドバイザー。ロイ・フォッカー少佐を愛しているが、結婚という形にとらわれず、おたがいに束縛しない関係を通している。「パイン・サラダ」など、新しい料理を考える才能もあり、よき主婦になる女性(ひと)といえるだろう。

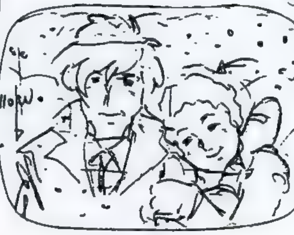

▲第17話の絵コンテより


◀エプロン姿（第16話）


◀制服姿


▶制服後姿


▶フォッカーとの回想（第20話）


▲第20話の絵コンテより


▲第2話の絵コンテより


▲第2話の絵コンテより

男性スタッフは女性キャラをこう見ている 3

「日本人の理想ともいえる未沙は、家庭の主婦的な面をもっていますが、実際につきあって結婚したいなと思うのはクローディアでしょうね。考えに余裕があり、男性を束縛しない女性といえますね」　企画／岩田　弘氏


Claudia
La'suel

Vanessa



ヴァネッサ

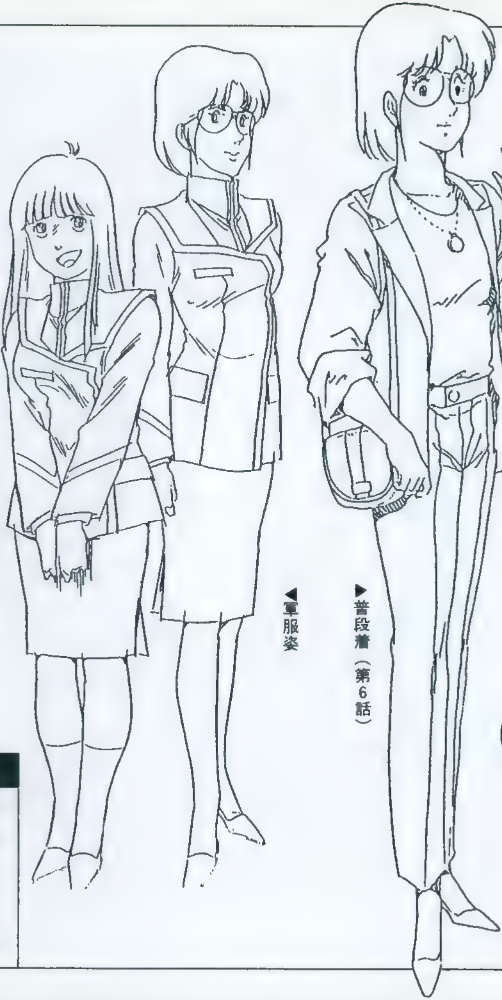
マクロスのブリッジ・サブ・オペレーター。サブ・オペレーターの中では、21歳の最年長。生活態度はきわめて真面目で、潔癖な性格の持ち主。彼氏がほしくてもできないタイプ。男性にあまり興味を示さない未沙に対して、妙な仲間意識をもっている。



▲第17話の絵コンテより

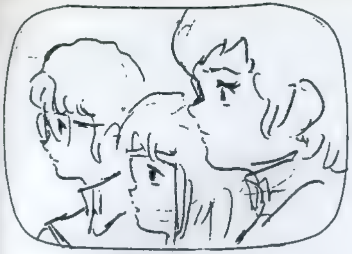






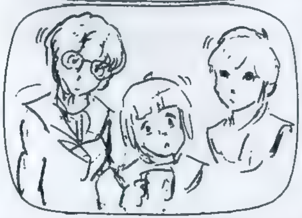
▶普段着（第6話）

◀軍服姿



▲第20話の絵コンテより





▶第20話の絵コンテより

男性スタッフは女性キャラをこう見ている 5

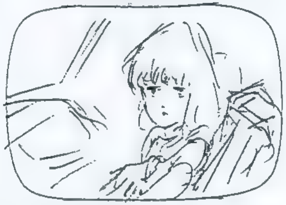
「メガネをかけている娘はみんな好き、だから、ヴァネッサのファンです。メガネをかけさえすればスタジオのKさんだって好きです」（演出の山賀博之氏に伺う予定が本人不在。匿名希望の他のスタッフの証言によりました）

シャミー

マクロスのブリッジ・サブ・オペレーター。サブ・オペレーターの中では最少年の18歳。どこか、たどたどしく、どこを見てもたよりなく幼い。でも、なんとなくかわいらしく、男性陣の人気も高い。士官学校時代から未沙を慕っている。

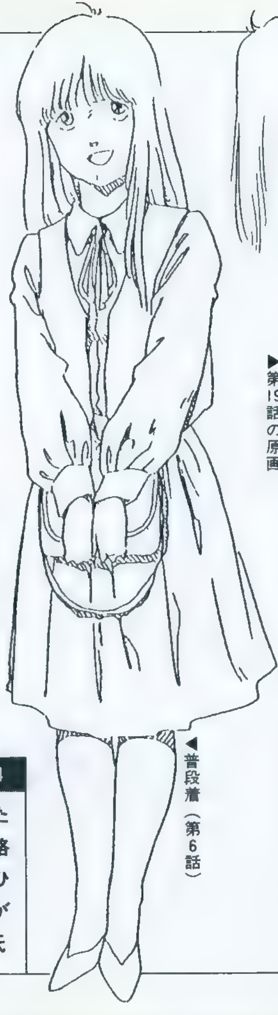


▶第17話の絵コンテより

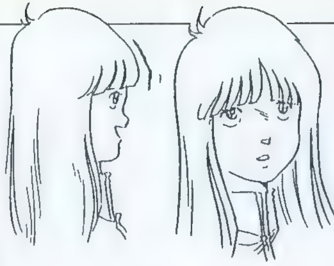




▲第2話の絵コンテより



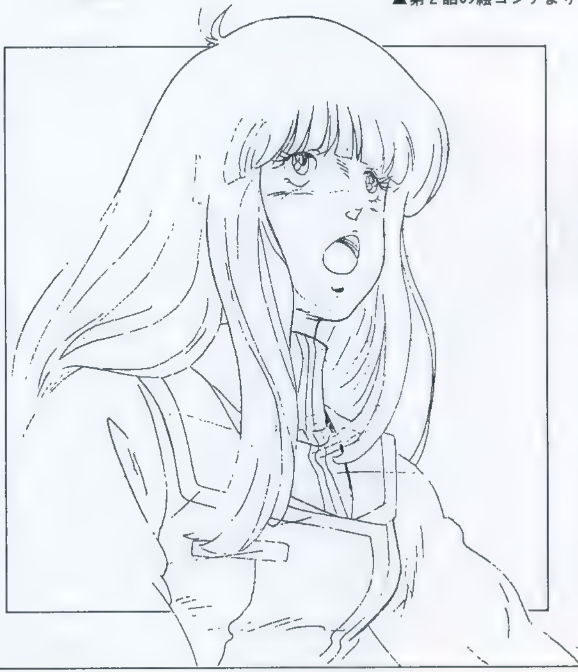
◀普段着（第6話）



▲軍服姿



▲第2話の絵コンテより

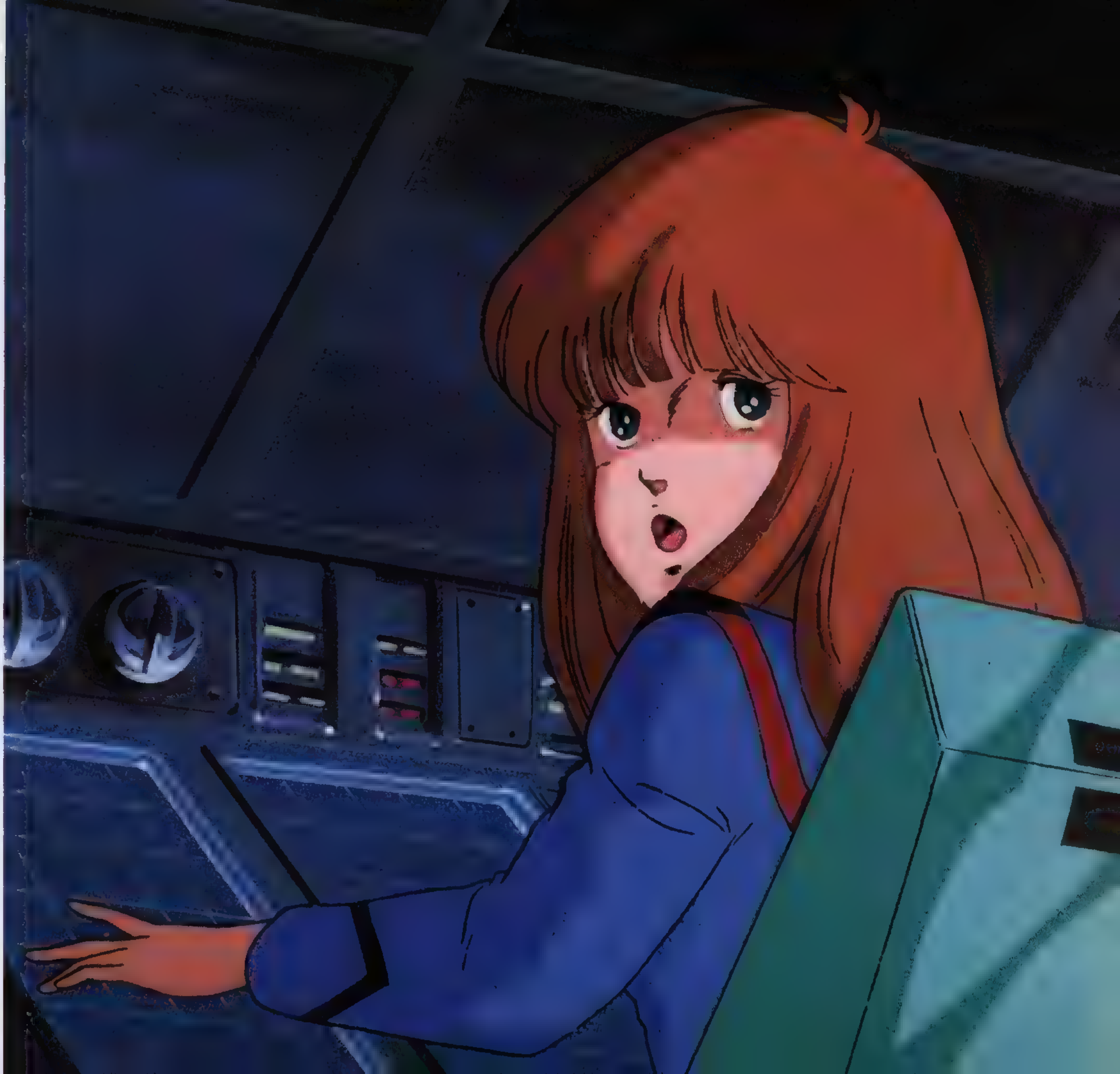


▶第19話の原画

男性スタッフは女性キャラをこう見ている 4

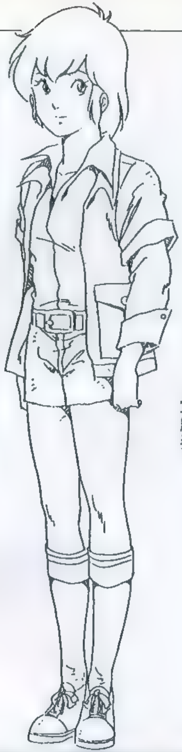
「シャミーの性格は、それほど考えて作ったわけでは無いんだけど、室井深雪くんの性格とキャラクターの絵が相乗効果でだんだんひとつになり、予期せぬ計算外のおもしろさが出せましたね」　CD／石黒　昇氏

Shammy

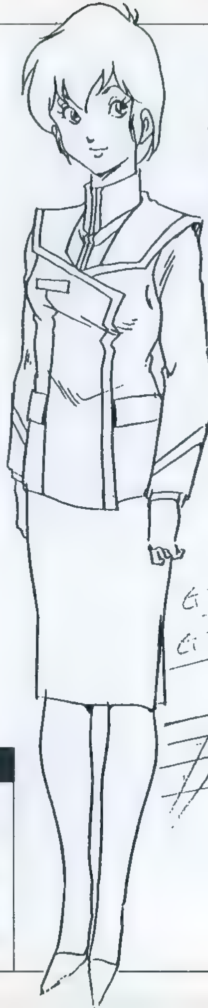




Kim



▶普段着（第6話）



▶軍服姿



▶軍服姿



▲第2話の絵コンテより



▲第4話の絵コンテより

● MACROSS GAL PROFILE

キム

マクロスのブリッジ・サブ・オペレーター。ちょっと威勢のいい、おきゃんな娘。シャミーとのコンビが楽しく、年齢は19歳でもまだまだ子ども。口のわりに、肝心のときには意外と情けない。



◀第19話の原画

男性スタッフは女性キャラをこう見ている⑥

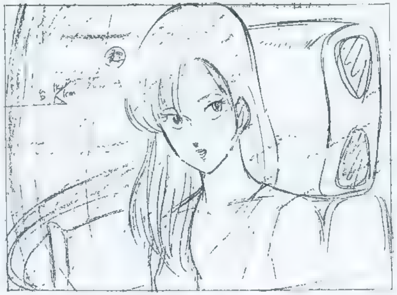
「ボーイッシュな東洋美人という感じがいいですね。シャミーとのペアでの演技が多いため、どうしてもセリフが少なめ。でも、ひとりでも充分魅力的なキャラですから、もっと活躍してほしいな」　録音監督／本田保則氏

ミリア・ファリーナ

ゼントラーディ軍の若き女性戦士。15歳という若さながらも、味方から「エースのミリア」と恐れられている戦闘技術のもち主で、クアドラン・ローなどのバトル・スーツを自由自在に扱う。プライドが高く、自分の腕を過信しすぎるきらいがある。マクシミリアン・ジーナスとの戦いで、はじめて「負け」を知り、以来、マクシミリアンを追いつづけ、最後には「愛」を知ることになる。



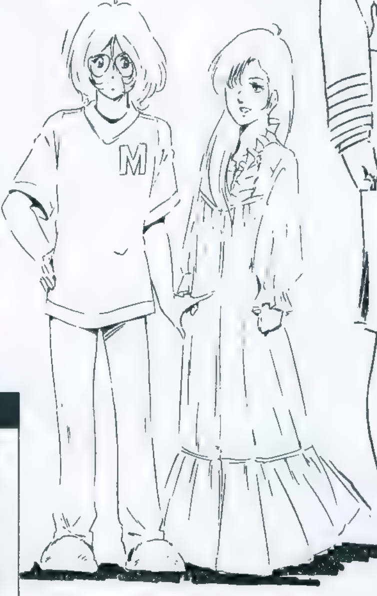
▲第12話の絵コンテより



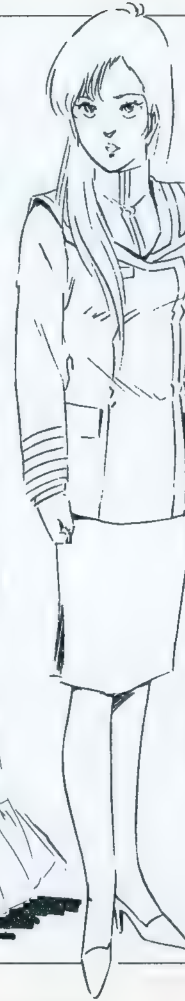
▲第19話の原画



◀ワンピース姿（第23話）



▶寝巻き姿（第23話）



◀マイクローン姿（第24話）



▶マクロス内での普段着（第22話）

男性スタッフは女性キャラをこう見ている⑦

「キャラ表をパッと見て、描きやすいなと思いましたね。あの顔立ちがたまたま自分にあっていたんですね。結婚後は、デレーとした目にしたいと思っているのですが、どうでしょうか？」

作画監督／平野俊弘氏

Millia Falliena

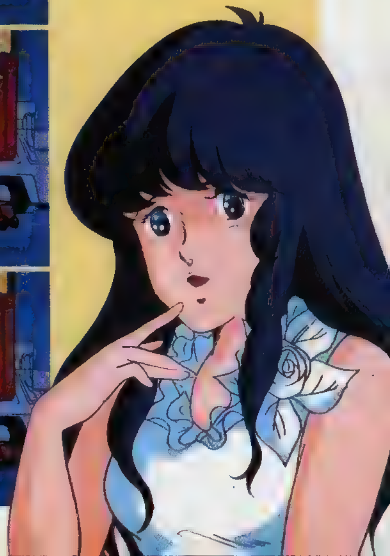


MACROSS GALS COLLECTION

マクロスには女の子がいっぱい!

「超時空要塞マクロス」には、リン・ミンメイをはじめとする素敵な女の子がいっぱい! いま男の子が注目するマクロス・ギャルの魅力をクローズ・アップ。





リン・ミンメイ

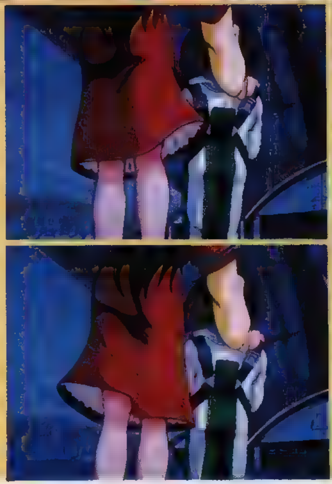
幼い顔立ちが、とっても愛くるしい、男の子にとって、一番気になる女の子。その仕草や人見知りしない性格は、まさにアイドルと呼ぶにふさわしい女の子といえるだろう。





アイキャッチ・ガール

かわいらしいふんい気のミンメイだが、そのスラリとしたプロポーションも魅力のひとつ。第1話のヨッちゃんとのやりとり場面や、フォッカー少佐も見とれたヒップラインに注目。



ファッショナブル・フェース

番組の中で、さまざまなファッションを見せてくれるミンメイ。ファッションが変われば、ミンメイも変わります。ミンメイのファッショナブル・フェースをいくつか見てみましょう。



▲輝とのデート（第11話）



▲マクロスの閉鎖空間にて（第4話）



▲水着姿でコンテストに出場（第9話）



◀チャイナ・ドレス（第9話）



▲初主演映画の衣装（第18話）



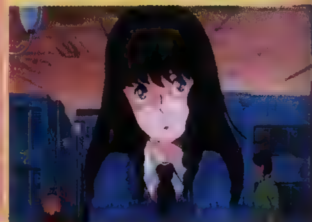
▲輝を見舞う（第18話）



▲コンテスト出場を待つ（第9話）



▲チャイナ・タウンへ向かう（第15話）



▲輝とのデート（第7話）

セクシー・フィーリング

第4話のシャワー・シーンでは、いつもより、ちょっぴりセクシーなミンメイが魅力。ミンメイのかわいらしいセクシー・フィーリングが、男の子たちを魅了する。



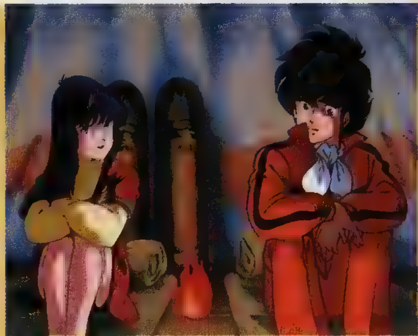


◀コンテスト会場で倒れかけたミンメイの仕草やスリットの入った舞台衣装など、セクシー・フィーリングがいっぱい。

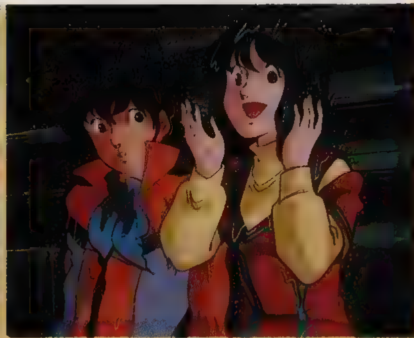


ステディ・ボーイ

ミンメイと一条輝。第4話の「リン・ミンメイ」で急速接近したふたり。そして、ミンメイが心から甘えられるリン・カイフンの存在。輝は、ミンメイのステディ・ボーイになれるのか?



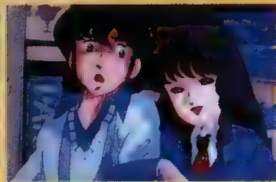
▲「君ならきっと、いいお嫁さんになれるよ」(第４話)



▲「気持ちいい!」(第４話)



▲第15話



▲第７話



▲第６話



▲ミンメイの従兄、リン・カイフン





▶「カイフン兄さーん!」甘えるミンメイ



▲救助され、複雑な気持ちの輝(第４話)



早瀬未沙

リン・ミンメイと対極の位置にある未沙は、19歳という若さながらも、未沙をよく知らないまわりの人に勘ちがいされ、本来の魅力を発揮できない女性だといえないであろうか？



アーマード・レディ

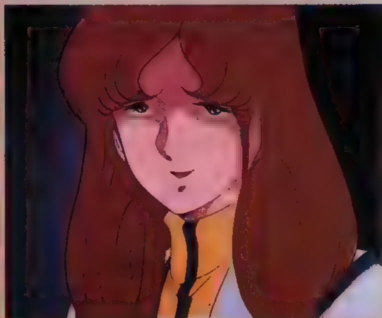
かたくなに自分の真意を見せない未沙は、ヨロイを着て、自分の美しさを見せない〝アーマード・レディ〟だ。





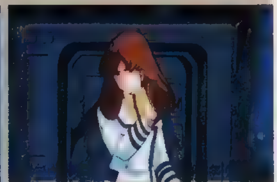
▲ブリッジ内の未沙（第18話）

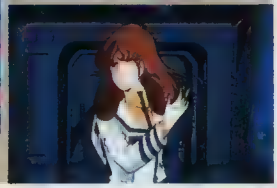




▲アートランド作画の未沙(上)とスタジオ・イオ作画の未沙(左)。どちらが好み？



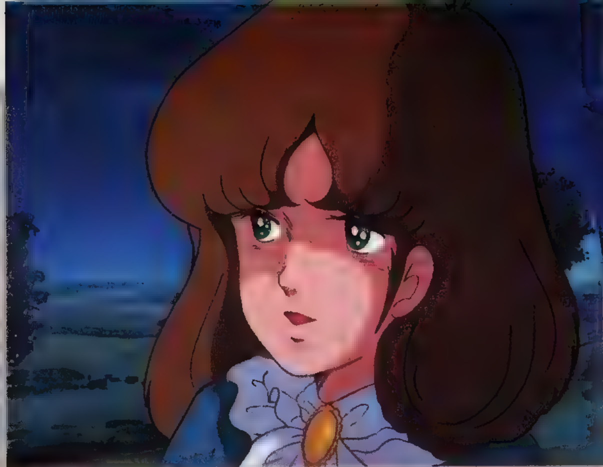




▲髪の毛をかき上げる仕草や、体にフィットしたタイト・スカート姿が、魅力的（第18・1話）



▲「私も軍人になって火星に行きます」



▲ライバー少尉の火星行きが決り、喜ぶ未沙



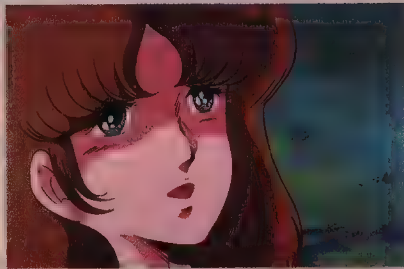
ライバーズ・メモリー

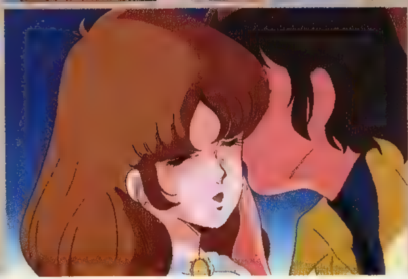
未沙には、初恋の人を戦争に奪われたという、悲しい過去がある。初恋の人、ライバー少尉との思い出。そこには、13歳の美少女、未沙の愛くるしい姿が見られる。

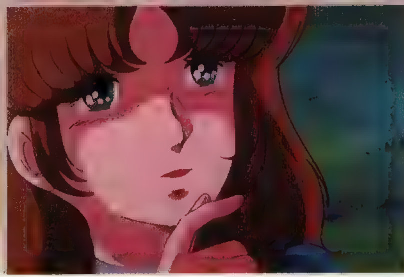




◀「気をつけて……」









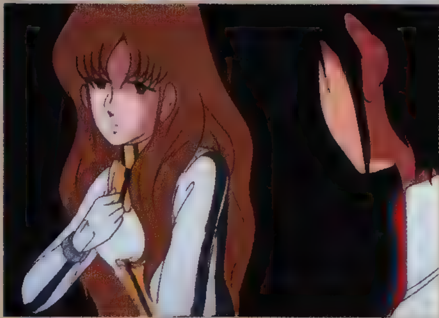
なだらかなヒップ・ラインが美しい▼

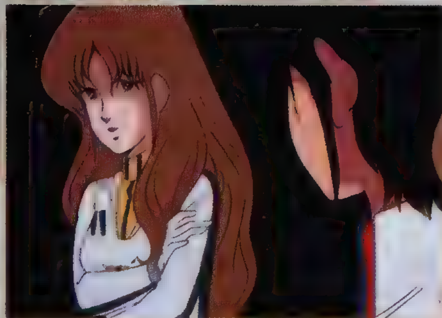














ファースト・コンタクト

　マイクローンとゼントラーディ軍との接触は、同時に、未沙と輝の心の〝はじめての接触〟でもあった。



◀地下冷却水を浴びて、全身が濡れ、髪もロングになり未沙の女性らしさが強調された。





▲ゼントラーディ軍から脱出後、未沙は輝に心を開こうとする（第19話）

▲濡れ姿の未沙（第12話）





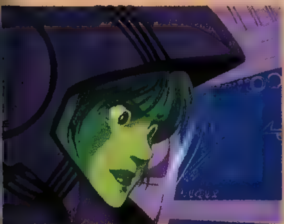
▲マックスらの救助隊が駆けつけ喜ぶふたり（第12話）

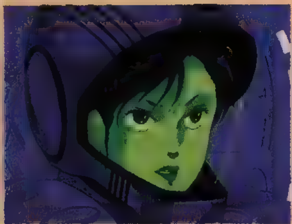


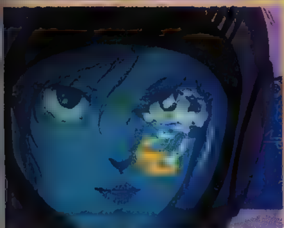
▲未沙と輝の口づけは、ボドルザーを驚異させた（第11話）

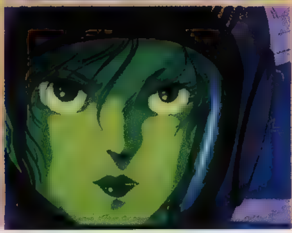


▲ミリアとマックスは運命的に出会う（第18話）









ミリア・ファリーナ

ミンメイや未沙には無い、クールな魅力をもつ美少女。グリーン・ヘアーと赤いルージュのコンビネーションがミリアの美しさを強調している。





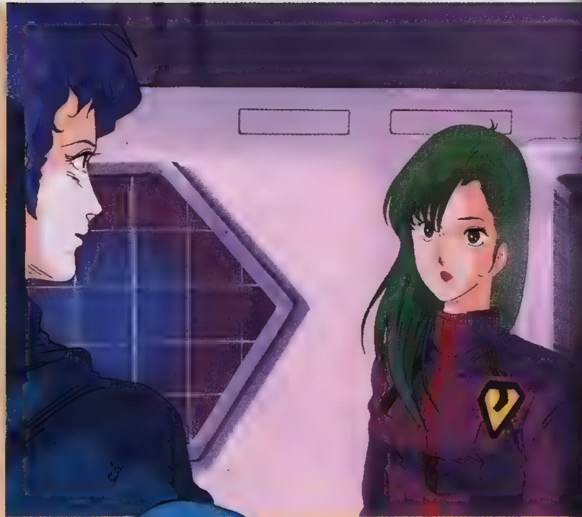


エース・ファイター

ミリアが搭乗するバトル・スーツ、クアドラン・ローは、ミリアが乗るにふさわしい。女性の体型に似たフォルムをもち、特に脚部ラインが美しい。

バージン・クライシス

幾千にもわたる観察軍との闘いに一度も負けたことのないミリアは、自分を負かせた相手に逢うため、マイクローン・スパイに志願する。

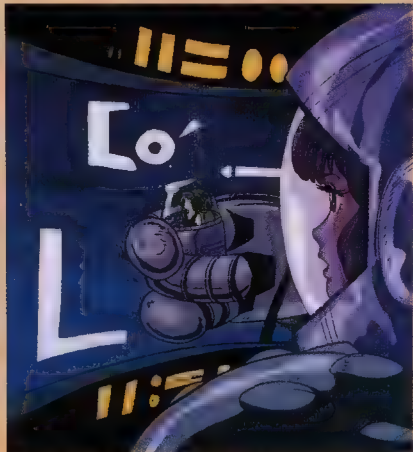




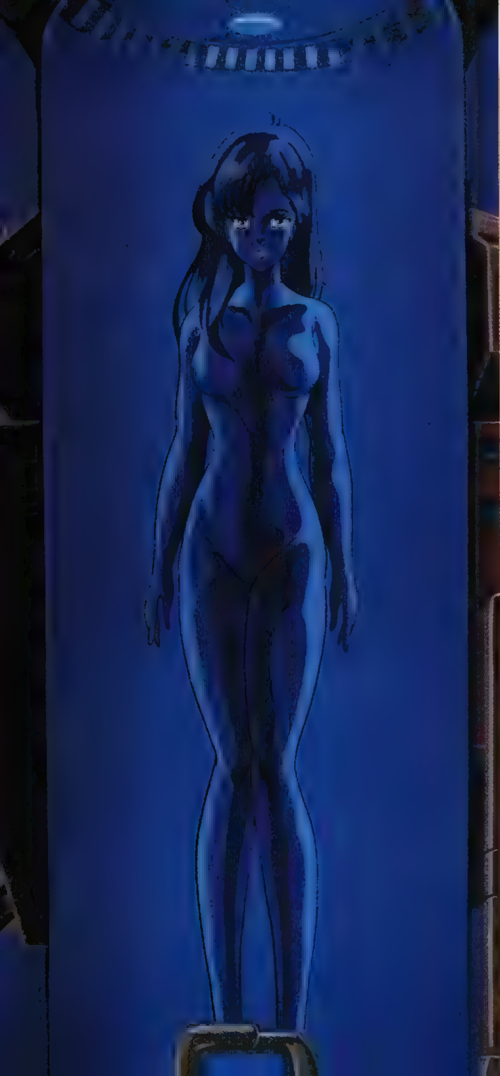
◀素顔のミリアと恋に落ちるマックス



▲「あの男——あのパイロットに逢ってみたい」

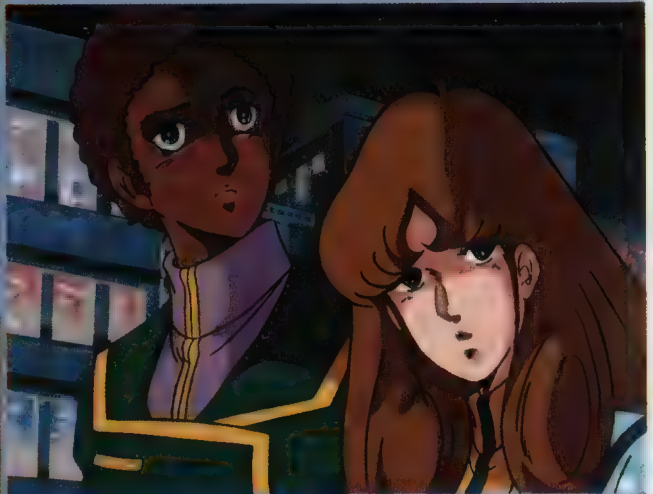


◀縮少装置に入るミリア。▲部下に運ばれた地球へ



ブリッジ・オペレーターズ

マクロスのブリッジは、グローバル艦長以外、すべて女性要員で構成されている。各々、個性あふれるギャルばかりだ。



▲未沙とは無二の親友

クローディア・ラサール

ブリッジで活躍する女性の中では最年長者。落ち着いたふんい気をもつキャリア・ウーマンでまさに〝いい女〟。





▲未沙のことを案ずるクローディア



▲「坊やに自分の気持ち伝えたの？」



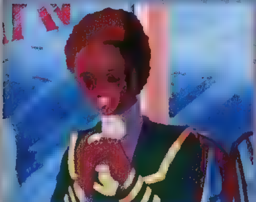
▲「年下だって気にすることないわ」



▲抜群のプロポーション



▲愛するフォッカーと偶然一緒になる。(第11話)



▲フォッカーへの思い



▲「パインサラダ、食べてみる？」

アンマリージ・ガール

ロイ・フォッカーを愛するクローディア。それは、相手を束縛しない〝大人の恋〟。



シャミー

ブリッジ・オペレーターの最年少者。年齢は18歳だが、仕草や言葉づかいが幼く、かわいらしい。



▲シャミーの言動に、ロリー大混乱。



▲「ヤダァー！　ロリコン!?」



▲「とぼけちゃって、ツンツンしちゃ



▲うから！」「ヒエエエ！」



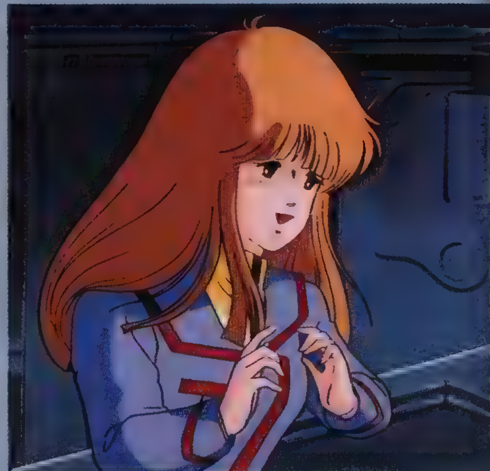
▲シャミーの連続カット。表情がとっても豊か。



▲私服でショッピング。（第18話）



▲横顔もかわいい。（第1話）



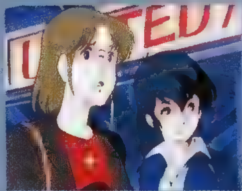


▲マクロスが宇宙に出ると聞かされて、心配。（第2話）

ヴァネッサ

メガネをかけた知性派タイプ。3人娘の中では、最年長者で、お姉さんのイメージがある。


▲主にレーダーを担当している


▲キムとともに(第18話)


▲私服でショッピング。(第18話)

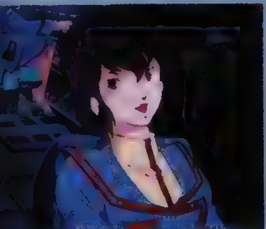

▲輝のミンメイ救出騒動は、ブリッジ内の好話題(第17話)

キム

3人娘の中では、一番の行動派。ボーイッシュでおきゃんな娘だが、口のわりには意外と情けないところもある。


▲なかよし3人娘。(第15話)


▲私服のキム。(第18話)


▲第1話より


▲第4話より

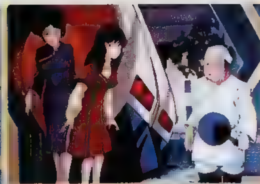

▲第15話より


▲第2話より

サブ・キャラクターズ

わずか一回だけの登場でも、印象に残った女性キャラクターも、マクロス・ギャルのひとりです。バイプレーヤーとして活躍したマクロス・ギャルを紹介。







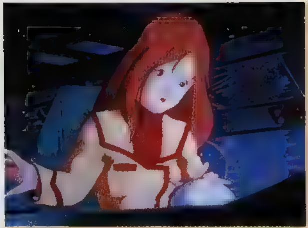
ミンメイのおば

はじまった当時、年上の女性キャラとして期待された中国系美人。カイフンの母親です。

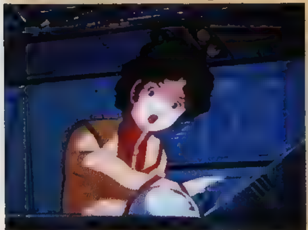


ラミス

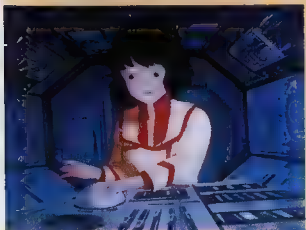
ミリアの美しき上司。宝塚に出てきそうなふんいきをもっている。



「ああん、間にあわない！」



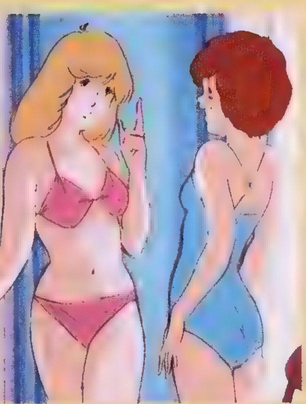
「いやん、横から襲っちゃイヤ！」



「いやん、そっちはダメッ！」

PPVギャル

ピン・ポイント・バリアー・システム班の女の子たち。実戦中のセリフに注意。



ミス・マクロス・コンテストに出場した女の子たち。（第9話）





ジャミス・メリン

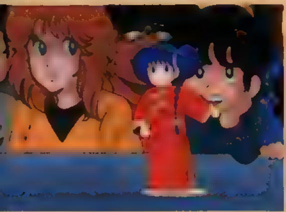
ミス・マクロス・コンテストに出場したハリウッドの名女優。口元のほくろがセクシー。



第１話より、ミニのかわい子ちゃん。



第１話より、振りむいて、ニッコリ。



第18話より、ミンメイ人形も注目。



第18話より、ロリコン・ポスター？

★スタッフもお好き？

画面をじっくり見ていると、意外な場面でかわいい女の子を見つけることがあります。作画スタッフのお遊びかな？















看護婦さん

いま、注目のマクロス・ギャルは、第18話に登場した看護婦さんです。優しい目、超ミニの制服が魅力的。

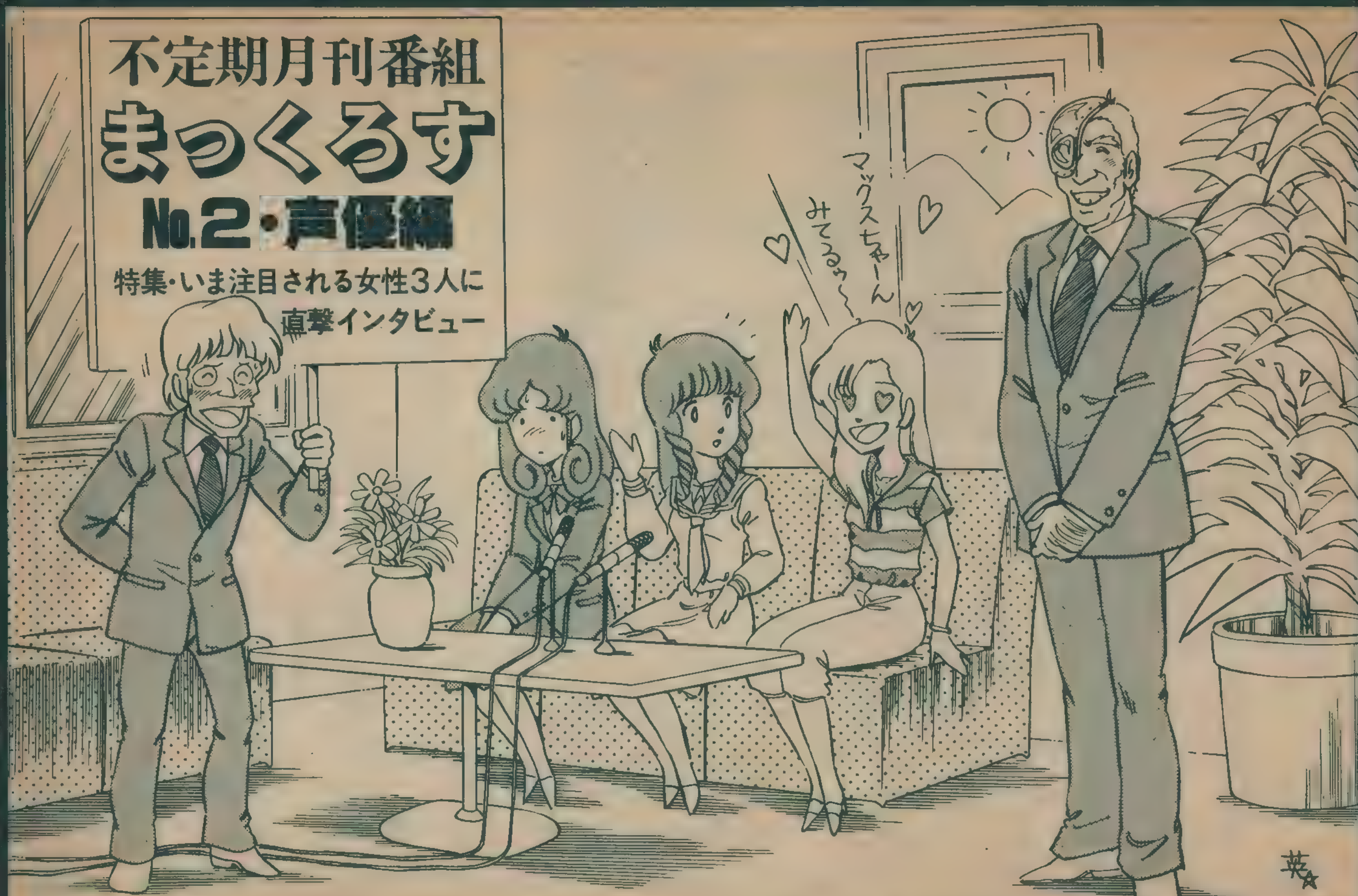


イラスト　しまだ・ひであき

飯島真理★リン・ミンメイ

キューンキューンと人気急上昇!! いまやアイドル

「マクロス」のLP第2弾は、初登場の週に全国で8位の売れ行き。飯島真理の歌う挿入歌が中でも大人気。「ミンメイ、イコール飯島真理でみられちゃって。本当はちがうんですけどネ。……」と真理ちゃん。そこで本当の飯島真理に、彼女のミンメイ観もまじえて直撃インタビュー。





■この作品に参加したきっかけは?

「以前から、お世話になっていたビクターの担当の方にすすめられまして……」

■すると音楽関係から、こういった世界にはいったわけだ。最近の音楽活動は?

「まず4月5日に、NHKで放映される『スプーンおばさん』の主題歌を歌ったEPがでます。そして夏には、私が作ったオリジナルソングのEPが発売になります。LPもでる予定。とってもポップな曲になると思うな」

■現在、国立音大ピアノ科に在学中。音楽とはじめたのはいつ?

「3歳ぐらいからピアノを習いはじめて、そのころ兄が聞いていたタイガースの歌が、強烈な幼時体験だった。ずっとクラシックピアノをやってきたし、中2のときに親の大反対を押しきって音楽学校に入ることを決意、国立音大附属高校に入学しました。それから山下達郎さんの曲が好きになってコンサートに通いづめ。そのステージでキーボードを担当している難波弘之さんの大ファンになっちゃって。その難波さんに、自作の曲のテープを聞いてもらったのが、この世界に入ったきっかけかな?」

■これからは声優と音楽とのどちらに重点をおくことになるかな?

「う〜ん、やっぱり音楽かなあ。自分としては……。お芝居も好きだけど」

■ミンメイと飯島真理、似てますか?



飯島真理 全角度チェック



イラスト・しまだ・ひであき



こんにちは。
いつも あたたかい応援どうもありがとう。
マクロスが始まって、あっという間に何ケ月も
すぎてしまいましたが、みなさんのおかげで
放送延長も決まり、ほっとしているところです。
さて、本日は〝飯島真理〟として
かなりきわどい(?!)ところまで質問されてしまい(?!)
少々とまどいながらも ウレシく答えてしまいました。
これからは ぜひ、私個人の音楽活動にも
注目していただきたいと思っています。
オリジナルアルバムを聴いていただければ、
ミンメイ＝飯島真理 ではないという事実が
おわかりいただけるでしょう……
「マクロス」最後まで 応援よろしくお願いしますね！
Mari Iijima

「ドライでルーズなところが似てる。たとえば男の子とつきあっていて、自分ではそれほどでもなくてもズルズルと長びいて、結局、唐突に振っちゃったりする。悪い性格ですネ」

■そりゃ罪だなあ。で、ちがうところは？

「ミンメイが16歳で、私が19歳。彼女なら許されても、私の年齢ではとてもできないっていうことがあると思う。たとえばカイフンとの会話で、輝や未沙を傷つけてしまうとか……。ときどき、30年代生まれと、40年代代生まれのギャップを感じちゃいます」



■では最後にプライベートな質問をいくつか。マクロスキャラではだれのファン？

「役になりきっちゃうと輝クン。個人的にはね〜〜〜。カムジンのファン！」

■はじめてお化粧したのはいつ？

「高2のとき、アイシャドーを買いました」

■そのときの感想は？

「タヌキ！ ベトーッってつけちゃったからまるでタヌキだった。いまはあまりしないの」

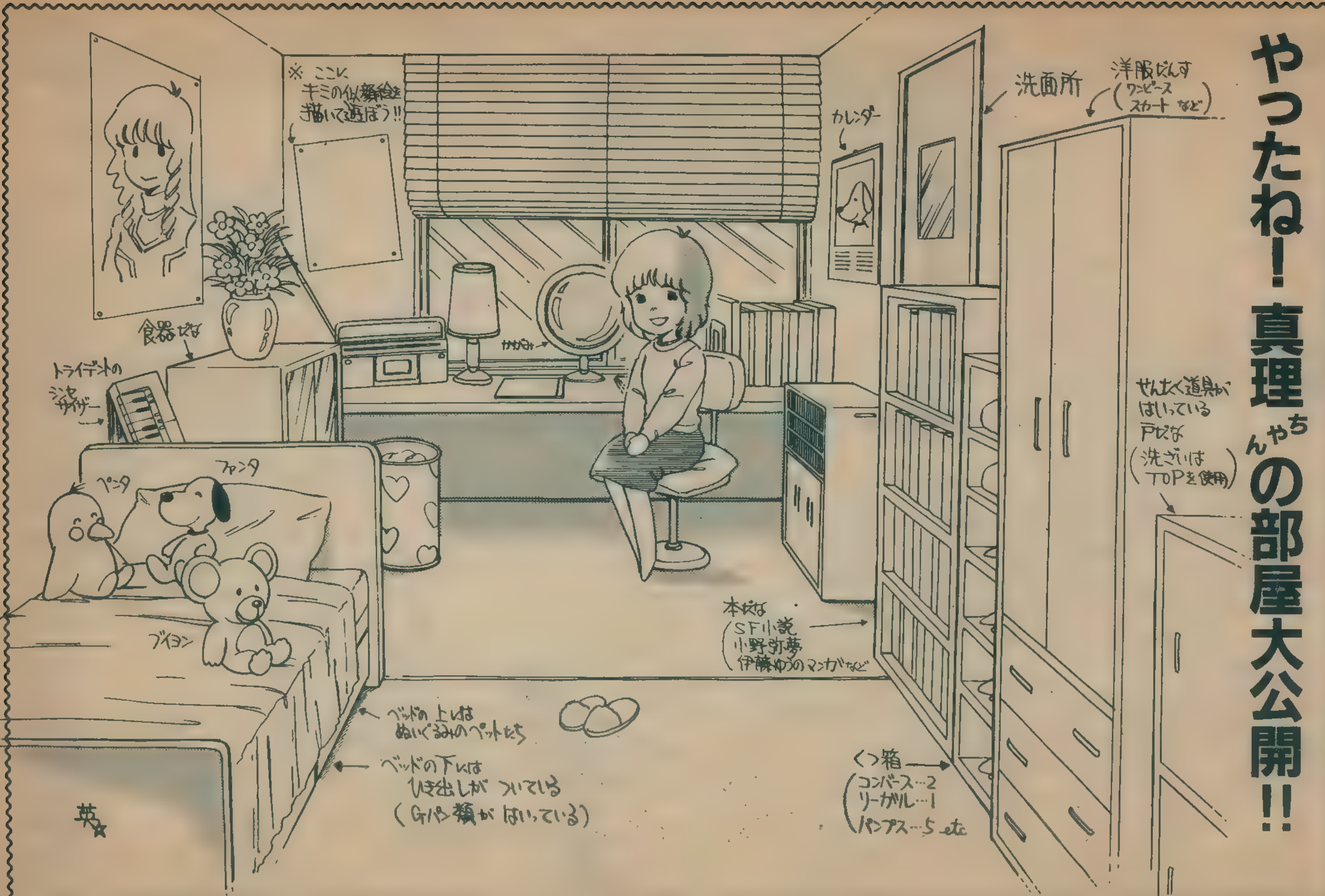
■ファーストキスはいつだった？

「えーっ！ そんなこと聞くの〜〜。ほっぺにフワなら、高校2年生のとき。夕暮れどきの大きな木の下で、ほっぺにチュでした〜！ でもそれ以上には発展しなかったの。すっごくメルヘン。青春ドラマみたいでしょ」

■約2時間にわたって、AMの取材につきあってくれた真理ちゃん。THANKS! 歌に、声優にとこれからも大活躍を期待します。



やったね！真理ちゃんの部屋大公開!!



イラスト・しまだ・ひであき

※このイラストは真理ちゃんの話をもとに描いたものです。

土井美加★早瀬未沙

週末のアニメで大活躍！ シックでチャーミングな"ウィークエンドの女"

「聖戦士ダンバイン」のマーベル「逆転イッパツマン」のミンミン「愛の戦士・レインボーマン」のパステル・プチ「超時空要塞マクロス」の早瀬未沙と、週末のアニメーションを独占する土井美加さんにアダルト・タッチ・インタビュー！



■アフレコの仕事をはじめられたのは？

「劇団の研究所に入ったころは、子どもっぽい感じでしたので、入った年にお姫さまの役を演りまして、それがきっかけで、劇団がユニットでやっていた『ペイントン・プレース物語』の声をはじめてあてたんです。つづいて『がんばれベアーズ』(TV版)のアマンダ役でレギュラー出演して、そのころは、週にそれだけという感じでしたね」

■アニメーション作品は？

「『日本絵巻』が最初でして、つづいて『ヤットデタマン』のカレン姫役でレギュラー出演したんです。最初の内は、偉い武将の少年時代とか、男の子の役が多かったですね」

■「マクロス」はオーディションですか？

「そうです。ミンメイも一応演ったんですよ。ミリアも演りまして、キャラ表を見たときにはミリアのほうが私にとっては、ちょっと興味がありましたね」

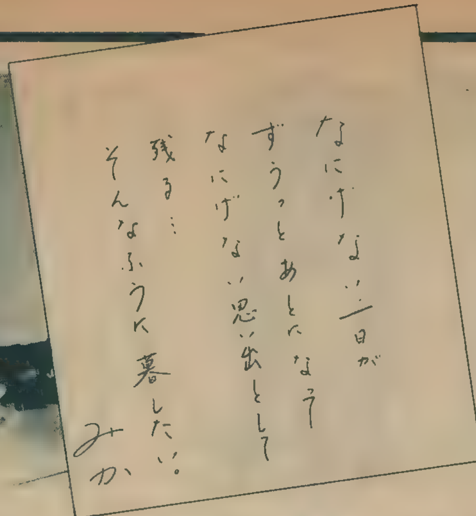
■未沙をお演りになって、どうですか？

「未沙は、すごく複雑なんですね。この役をきちんと演り終えたら、自分の中でも成長できるんじゃないかなと思いましたね。よくファンの方に、未沙は19歳には思えないといわれるんですけど、私自身、19歳だと思って演っていません。ときどき、録音監督の本田さんから"19ですから"とクギをさされますが(笑)



イラスト・美樹本晴彦







■未沙と輝の関係をどう見ますか?

「未沙は輝に恋をしているとは思っていないんですね。でも、いつまでも傷つけあうような相手では、いられないと思うんです。輝はいつもそばにいても、気にならなくて、フッと寂しいなと思ったとき、そばにいてくれると安心してしまう、そんな相手なんでしょうね。輝にとっては、未沙は年上ですし、そういう見方はしていないと思いますが、あるとき〝ぼくにだけ本当の自分を見せていたのかあ〟と、もし気がついたら、ちょっとドキッとするでしょうね」

■週末に作品が集中していますね?

「『ミンキーモモ』(ママ役)『逆転イッパツマン』『マクロス』を演っていたころは、あまりにも違うキャラクターでしたので、そのスタジオに入ると〝ああ、今日は早瀬未沙だな〟と役になりきれたのですが、そこに『レインボーマン』と『ダンバイン』が入ってきて、戦闘場面をやっていると命令口調がいっぱいでてくるので、混同してしまうことがあり、少し悩みましたね」

■今日は、シックな洋服ですね?

「こちらへ来る前に、CFのオーディションがありまして、落ち着いた感じにしてみたんです」

■お好きなファッションは?

「どちらかというとパンツ・ルックですね。あまり流行は追わないんです。白いブラウスとか地味なものが多いです。いしだあゆみさんのファッションが好きです」

■CF出演は多いんですか?

「一時期は多かったですよ。昨年、冷蔵庫のCFに出ていたんですけど。そのころは、竹下景子さんに似ているといわれましたね」

♥本名・同じ。昭和31年8月4日生まれ。仙台出身。身長155cm、体重44kg、B82・W58・H87。血液型・O型。好きな俳優は、クリス・クリストファーソン。劇団昴所属。

竹田えり★ミリア・ファリーナ

根はひょーきんな〝歌のおねえさん〟

「歌ってゴー!」「とびだせパンポロリン」など、子ども向け歌番組のおねえさんとして、なじみがふかい竹田えり。シリアスなミリアのイメージからは思いもよらない、るんるん気分の明るい彼女にインタビュー。

■飯島真理さんと同じ、国立音大卒だそうですが、やはり音楽からこの世界に?

「はい、自分で作詞、作曲、弾き語りをしてヤマハのポップコンの常連でした。八神純子ちゃんとか友だちでですよ。で、ビクターから、デビューしないかという話がきたんです。そのときの曲がマリリン・モンローみたいなので、床に寝そべって、足を出して歌う歌なんです」

■スゴーイ♡ で、テレビに出たんですか?

「いいえ、ラジオ放送だけでした」

■放送コードにひっかかったりして(笑)

「(笑)そのあと歌手とは別に、どうしても子供を相手にした仕事がやりたくて、アニメの歌や子ども番組の方に移ちゃったんです」

■それで「マクロス」のミリア役に?

「はい、オーディションではじめてレギュラーの役をいただきました。キャラをみたときに、わーっかわいい! もう惚れた! って思っちゃって。いざ演技してみると、もう大変なお仕事だということがわかりました。ただかわいい女の子の声を出していればすむという役じゃないし。急にマックスと結婚しちゃったりとか、変化も多い。私は普段のしゃべり方だと、子ども番組の歌のおねえさんをやっているもので、言葉のふんいきがすごく幼いんです。それで、もっと低〜く発音しなさいって、すごく注意されました」

■アニメの歌の仕事はどんなものを?

「デビューは『クオレ物語』の歌。それから『南の島のフローネ』の挿入歌。そして『パタリロ!』のエンドテーマ〝美しさは罪〟を歌いました」

■日本の歌と外国の歌ではどちらが好き?













「日本人の歌が多いですね。でもおそうじのときは、外国の歌をかけるんです。日本の歌だと、いつのまにか歌詞を聞きはじめちゃって、おそうじがSTOP!なんです」

■仕事がお休みのときなにしてます?

「いまは、新しいシンセサイザーを買ったので、それで自分の曲を作っています」

■お好きなファッションは?

「ミニスカートが多いんですね。足が太いくせに!(笑)。なぜか好きなんです」

■ほかにアニメ関係のお仕事は?

「最近、アニメイベントのお仕事がきます。でもうまくしゃべれなくて。いつもは子ども相手に『コンニチハー』『ゲンキー?』なんてやってるから、カチッとしたしゃべり方がむずかしいですね」

■では、プライベートな質問を。まず、好きなミュージシャンは?

「南佳孝さん!もう最高に好きなの。LPは全部もってます。詞を聞くのが好きなので」

■ランジェリーはどういうものを?

「色は白!白です。メーカーはもう適当」

■水着なんかはどうですか?

「ワンピースですね。ビキニが似あわないんですよ、あれ。悲しいことに」

■ワンピースのほうがセクシーですよ。

「でもウエストにフリフリがついていて、なぜかヒヨコちゃんが描いてあるんです」

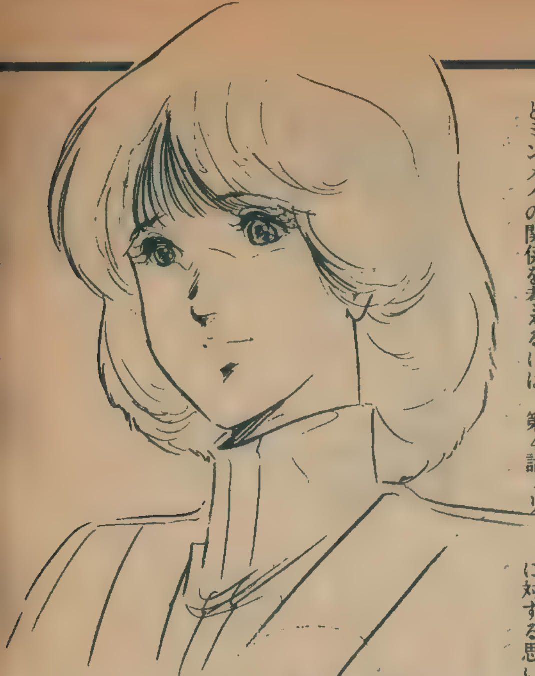
■(笑)そっそれはちょっと……。

「そんな水着買うつもりなかったんですけど、大人っぽいデザインだと、なぜかあわない。バッと、オバさんになっちゃうの」

♥本名・竹田芳子。昭和33年3月24日生まれ。兵庫県出身。身長159cm。B85・W58・H88。

マクロスの女の子、その傾向と対策

「かわいい」は女の子だけに許される形容詞





「マクロス」にでてくる女の子はみんなかわいい！　むろんキャラ設定の美樹本さんがかわいく描いているからだが、かわいさはじつは〝外見〟だけの問題じゃない。人気キャラ、ミンメイと早瀬未沙について、その内面のかわいさを分析すると……。

①ミンメイは、もっとかわいくなる。

いまや宇宙的な大スターとなりそうなミンメイ。ほんとにかわいい顔をしていてファンも多いんだけど、このところ、彼女がキライ！　という手紙も増えている。その原因は輝に対するミンメイの接し方にあるようだ。輝とミンメイの関係を考えるには、第4話「リン・ミンメイ」がふさわしい。

輝とたったふたりで死を予感したとき、ミンメイはふたつの夢について話す。ひとつは歌手になること。もうひとつはお嫁さんになること。一方、輝は「飛行機を飛ばすことしか能のない人間で……」の人なのだ。死を目前にして、ミンメイは輝と結婚式のまねごとをする。これが現在にいたる、輝のミンメイに対する思いいれのきっかけとなった。もうお嫁さんの夢はかなえられないということ。輝のほかにはだれもいないこと。そのあとに「いっしょに死のう！」という発想と、状況があったからこその結婚式。そのまねごとの直後に、町の人たちによって助け上げられるわけだけど、ミンメイはすぐたちなおって、キャイキャイはしゃいじゃう。一方、輝はというと、もうグターッとしてブッ倒れてしまう。この違いはどこからくるのか。男と女のたくましさの違い？

それはふたりの夢の持ち方の違いだと思うのだ。

ミンメイは、いま、本当にかわいそうである。かいしょなしの輝が、ウジウジ勝手に悩んでいるおかげで、せっかく歌手になれたのに、視聴者から非難されるのだから。

しかし彼女の無責任な言動が、輝や、その周囲の人間に多大な被害を及ぼしているのは事実。それは、彼女がまた、人間的に成長していないためだろう。いままで、おそらく苦労らしい苦労もせずに生きてきたと思われる彼女。もし今後のストーリー展開で、彼女が成長するならば、いまよりもっとかわいくなるにちがいない。たとえばカイフンにふられるとか……（かなり私情がまじってるなァ）。

②早瀬未沙のかわいらしさの行方について

第12話で輝とふたりきりになったときの未沙は、やたらかわいかった（毎月、こればかりいっているような気がするが……）。それは、男まさりにブリッジのオペレーターをつとめ、輝をどなりつけていた、カターイ彼女が意外な面をみせたからだ。

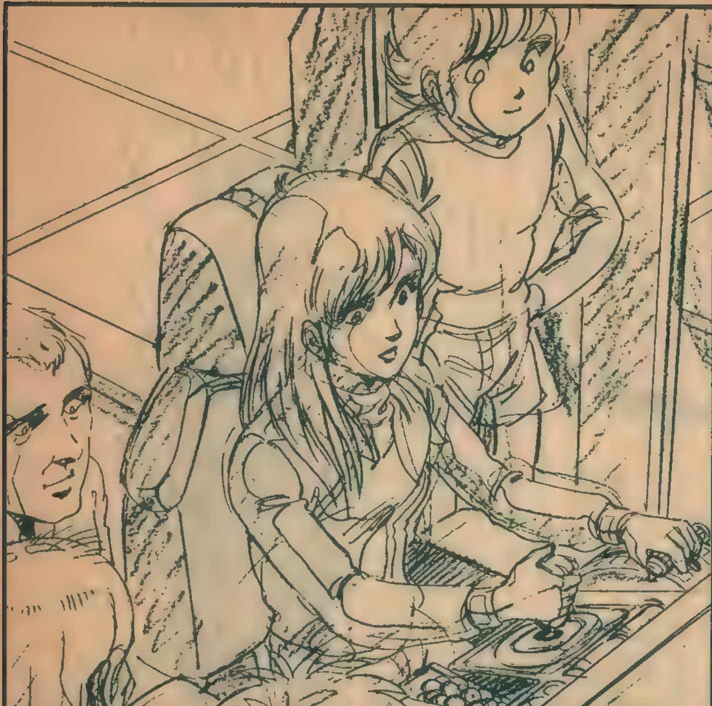
「いいじゃない。好きな人がいるってことは。何が何でもマクロスに帰りたいって思えるもの。私なんか任務が恋人がわり……」

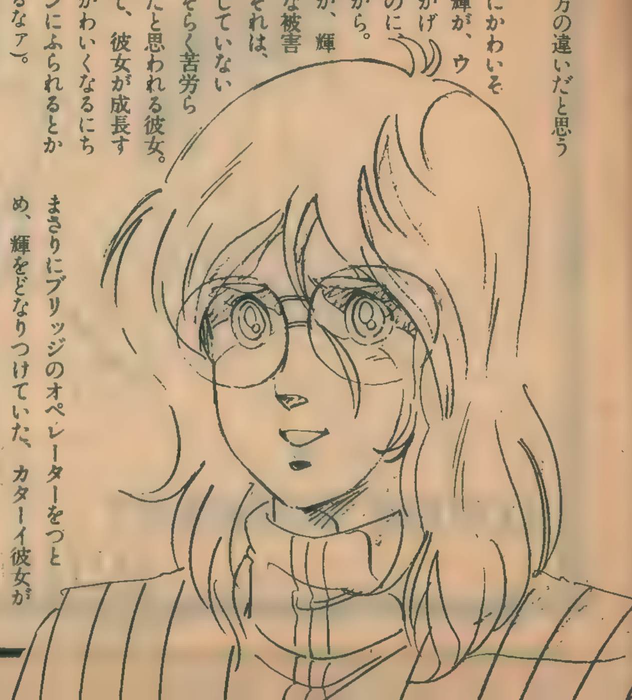
と語る未沙。

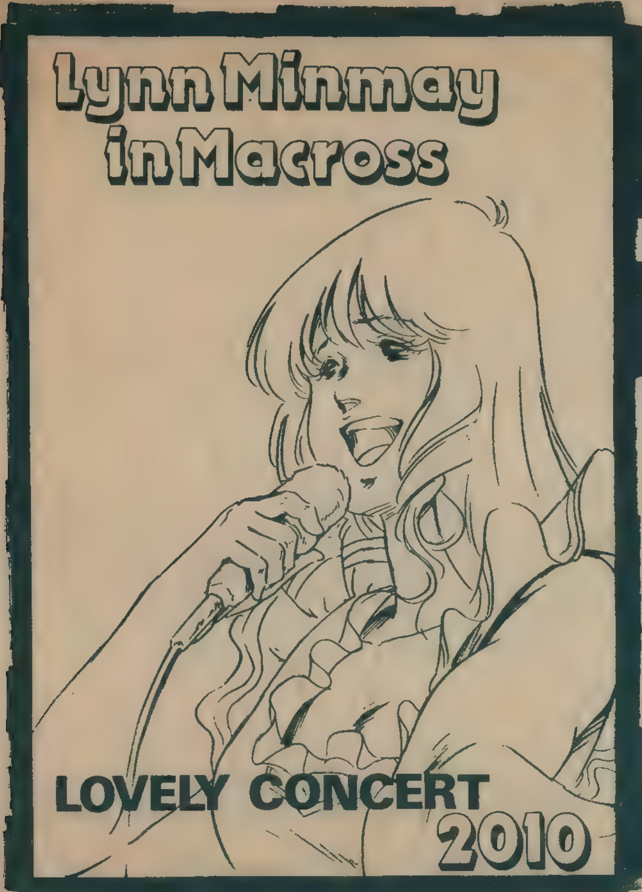
アッ、この人も女の子だったんだ！ という認識が唐突に生まれて、じつに愛すべきキャラになってしまう。

つまりかわいいんだよね。なにしろ、彼女をいつもオバさん呼ばわりしていた輝が「女らしい」と認めてしまうくらい。

いま、未沙の人気は上昇中。しかし安心してはいけない。彼女は、基本的に







はやはりクラーイ人なのだ。いまは、カイフンなんぞにうつつをぬかしているからいいものの、今後の展開で、輝に気があるところをみせたりして、ミンメイ・カイフン・未沙・輝の四角関係がドロ沼化したりすると、どうなることやら。きっと、ネクラの未沙の本性が出るにちがいない。

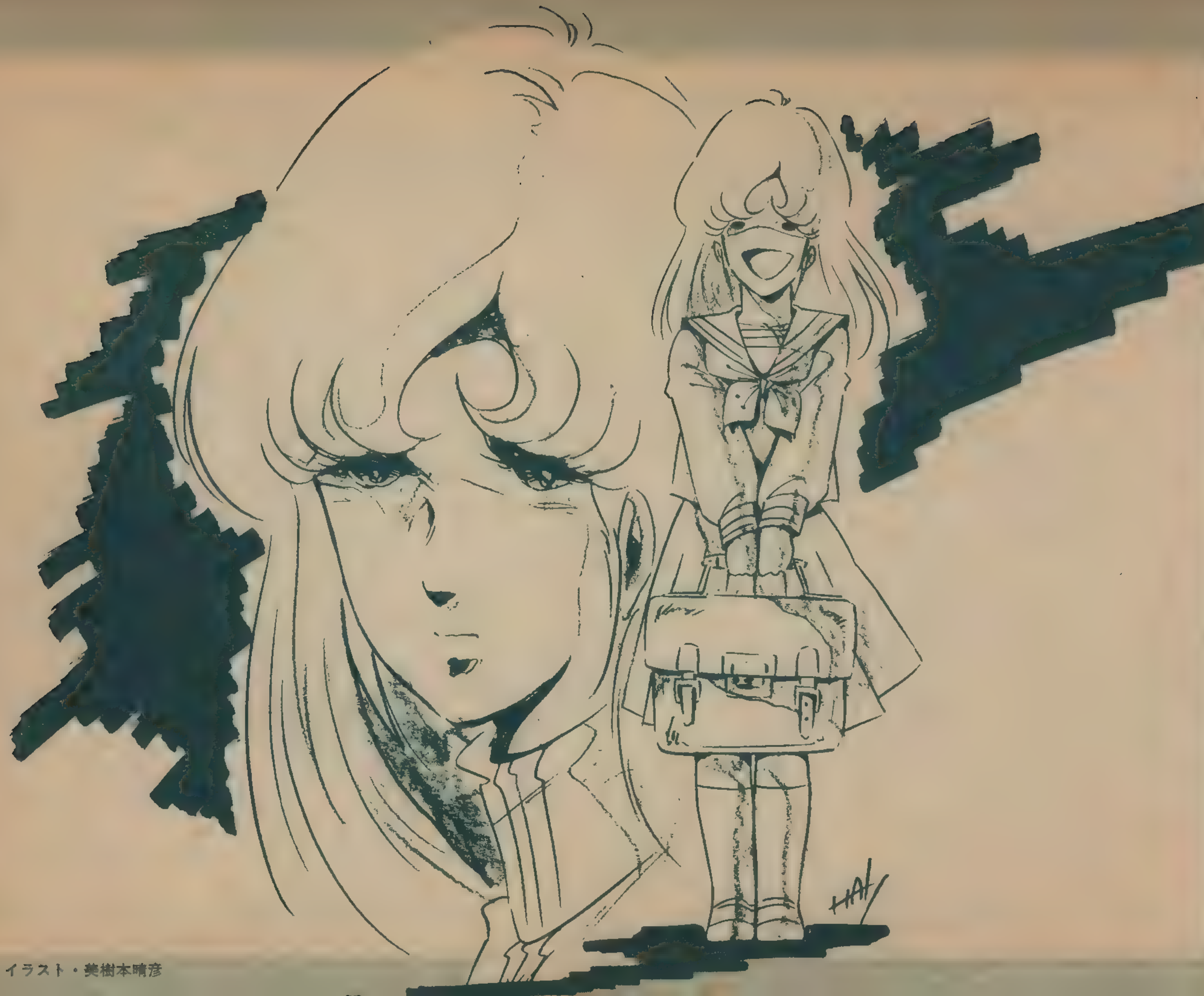
③かわいらしさについて。

ミンメイと未沙が一番かわいくみえたのは、それぞれが夢と語ったとき。だれかが私を好きになってほしいという夢。ようするに〝ふつうの女の子〟の夢を語ったときだ。むろんそのときの絵がかわいいというのも大きな要因。それはアニメーターが、そんなとき女の子はかわいいにちがいない！と思って作画したからだ。マクロスは人が人を好きになるという感情が、より巨大な破壊の力を超える物語。〝女の子の夢〟のかわいらしさがそのパワーだ。

（文責・渡辺）



回想の未沙



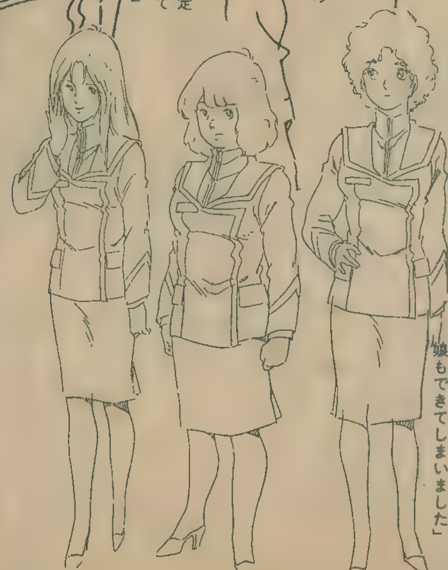
イラスト・美樹本晴彦

美樹本晴彦ギャル・ワールド

美樹本晴彦氏の描く女性キャラクターの魅力を、設定書で紹介。ゲスト・キャラクターを中心に、美樹本氏自身に、キャラクター設定のポイントを語ってもらいました。



▶ミンメイの後姿（第4話）
「原画の女の子が描いたのは腰が細すぎましたね。せめてこれくらいにしてほしいということで設定を描きました」



◀PPVギャル（第6話）
「かわいい女の子のバリエーションが限界に近づいたころの設定。結局、あまりかわいくない娘もできてしまいました」





▶ミンメイのおば
「はじめは、ミンメイの母親のつもりで設定しましたが、物語の都合からおばになってしまった。若いお母さんでよかったのに」



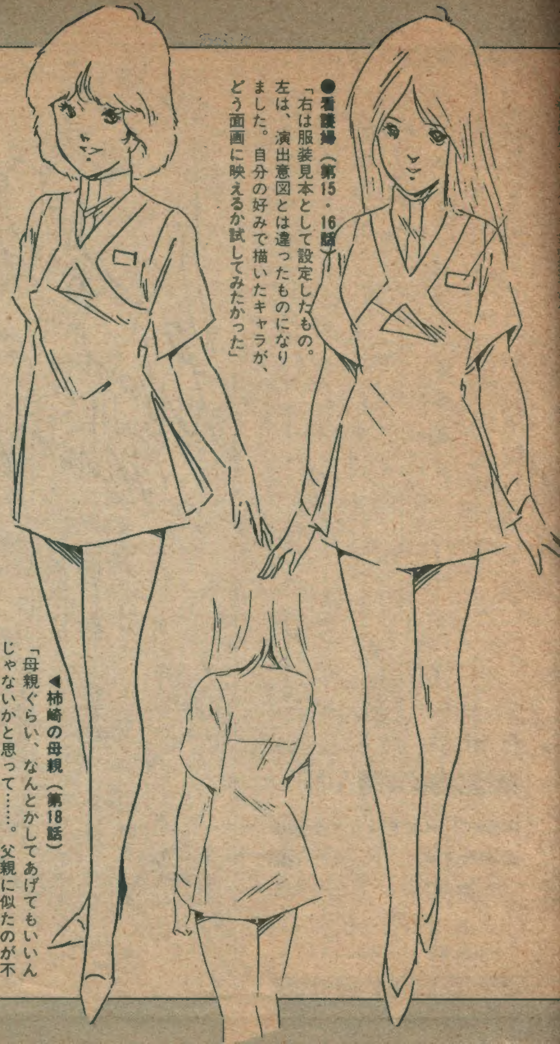
▶マリ子（第9話）
「大女優の付き人ということで、多少、ジャミスと差をつけたいということで設定 メガネは、演出の山賀氏の注文です」



▶女性士官（第8話）
「なにげなく、描きやすい絵を描いたら、こうなった（別に好みというわけではありません）」



▶ジャミス・メリン（第9話）
「大女優の美人のふんい気かなり苦手なジャンルですね。高慢なところが感じられるように設定しました」



●看護婦（第15・16話）「右は服装見本として設定したもの。左は、演出意図とは違ったものになりました。自分の好みで描いたキャラが、どう画面に映えるか試してみたかった」

◀柿崎の母親（第18話）「母親ぐらい、なんとかしてあげてもいいいんじゃないかと思って……。父親に似たのが不幸でしたねェ」



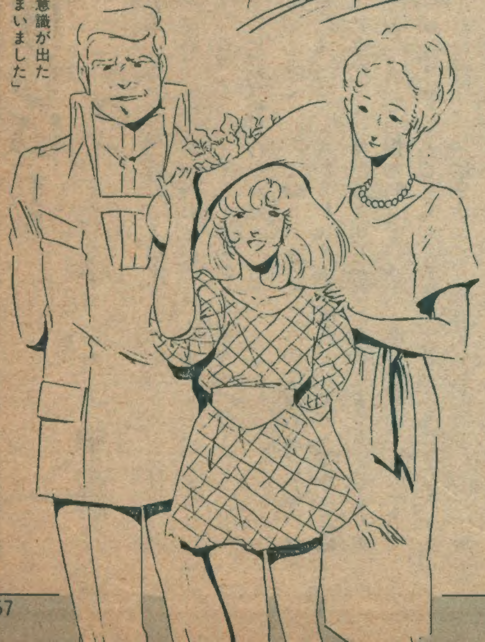


▼マクロスナルド店員（第18話）「脇役は、やはり目立たないように描くのが、いいんじゃないですか？　やっぱり……」



▲マクロスナルドの客（第18話）「ごく、なにげないゲストの顔を描いたもの。よくあるタイプのカップル」

▼未沙の母親（第22話）「上品で明るい女性。もうすぐ死ぬという意識が出たため、ついつい、暗く、やつれて描いてしまいました」



ミンメイ人形ほしい!

アニメ・ドランカー　中島紳介

アニメにおけるふつうらしさの追求——美樹本キャラの魅力はこれに尽きる。某青年コミック誌に掲載されているイラスト・シリーズ「fragrance」を見れば、一目瞭然。そこに登場する少女たちは、美少女であるという属性において非現実的であるが、ベッドの上に座り込んでいるその姿勢やぶどうをつまんで口に運ぶ指先、あるいは襟もとのマフラーを引き上げる仕草等々、その一瞬一瞬の動きは実に自然であり、動きが静止した瞬間の存在感に見事に支えられている。

ちょっと見ると、こんな絵に描いたようなぶりっ娘ポーズはないよォ——と、ヘソ曲りの男なら思うだろうし、女の子だって「ヤダア、ウソォ!」といって笑うだろうが、案外ごく普通の女の子の日々の情景ってこういうもんではないんだろうか。ウソだと思うなら、近くの女子高へ行くなり、電車や喫茶店の中でさりげなくガール・ウォッチングをしてみればいい。美樹本キャラというのが、世界一般でいわれているほどざーとらしいものではなく、むしろあたり前すぎるのだということがわかるだろう。



このふつうらしさへのこだわりは「マクロス」のキャラ表や原画などにある書き込みの指示でも明らかなように、よくも悪しくも美樹本晴彦という人の潔癖さを示すものである。わざとらしくチャイナドレスのスリットから足は見せない、無用なパンチラ・シーンは断固として修正する。キャラ作監としてのこの清潔さは大切にしていってもらいたいと思う。なぜなら、「マクロス」の人間関係は実に生生しい男女のかけひき——恋愛ゲームの上に成り立つものであり、それを生臭さ一歩手前で救っているのが、美樹本キャラのパステル・カラーの存在感であるのであるから。

したがって「マクロス」の失敗は、それがSFアニメであるということなのだ。その特殊性の故にマクロス艦内の人々がふつうにふるまえばふるまうほど、逆に異様に見えてしまうという不幸。美樹本キャラによるごくふつうのボーイ・ミーツ・ガールの学園アニメが見たい。いまは切実にそう思う。

最後にひとこと。美樹本キャラのポイントは瞳でも髪の毛でもない。その足である。ミンメイのパンツルックは最高です!(あ、しまった、男のキャラについて書くの忘れた)

CONTENTS

STAFF

■構成/徳木吉春・渡辺隆史
■表紙レイアウト/真野 薫
本文レイアウト/庄内 真

美樹本晴彦○色紙コレクション──②



昭和58年5月10日発行（毎月1回10日発行）第6巻第5号　昭和57年6月15日国鉄首都特別扱承認雑誌第6262号

Don't forget us !



NICE GUY in MACROSS